

■江原素六とその周辺58

金岡尋常小学校々長 山本喜三

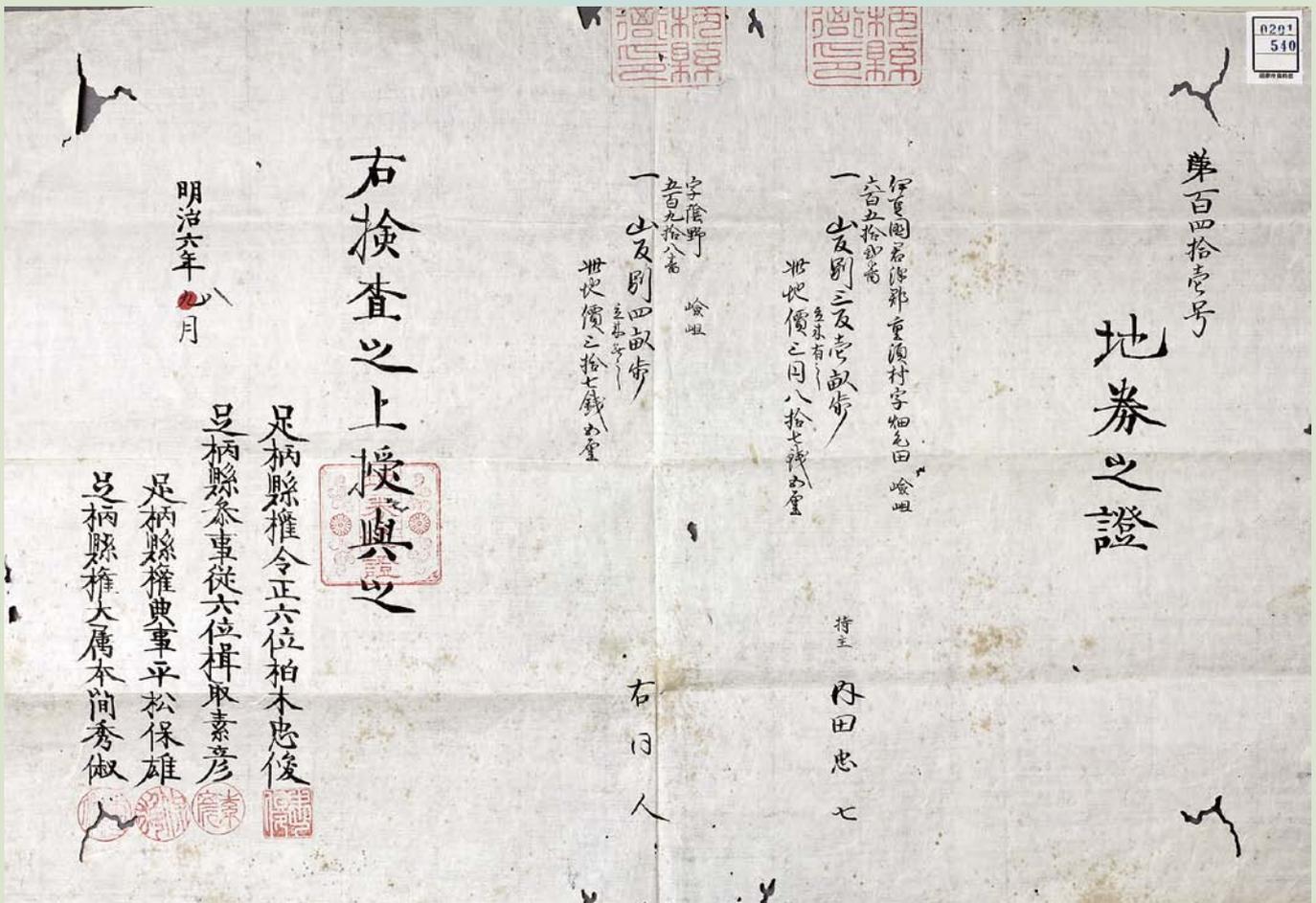
■26年度新収資料の紹介

■26年度当館収蔵資料の使用

二〇一五年四月

通巻121号

沼津市明治史料館通信



足柄県の壬申地券

(沼津市歴史民俗資料館保管・小海増田家文書)

壬申地券とは、地租改正の準備のため、壬申の年すなわち明治5年(1872)から土地所有者に対し交付が開始されたもの。ただし、翌年からは別形式の地券に変更される。伊豆国君沢郡小海村は現沼津市内浦小海。足柄県は小田原に県庁を置き、明治4年から9年(1876)まで存続し、伊豆国と現在の神奈川県西部を県域とした。地券発行者として参事楫取素彦(1829~1912、旧名小田村伊之助)の名があるが、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公、吉田松陰の妹文の夫となった元長州藩士である。参事は権令に次ぐナンバー2の地位であり、伊豆にもしばしば出張し民政指導にあたった。明治7年(1874)に熊谷県権令として転出するが、伊豆国の住民からは留任願いが提出された。

金岡尋常小学校々長 山本喜三

山本喜三は慶応二年（一八六六）一〇月一〇日、高崎藩士山本道三郎晴範の長男として生まれた。山本家は武田二十四将の一人として知られる山本勘助（菅助）の後裔の家で、現在でも山本家には勘助以降の繰り越し位牌の他、多数の資料が残っている。勘助が川中島の合戦で死亡した後、後裔は松平信興の土浦藩時代に仕官し、当主に従って各地に移り、幕末維新を高崎藩士として迎えた。晴範は二代当主で、文久二年（一八六二）に家督相続、元治元年（一八六四）で馬廻一七〇石で江戸詰めであった。

明治四年（一八七二）七月の廃藩置県に際し、山本家は家禄を奉還して高崎市山田町に移った。喜三は、明治一三年（一八八〇）十一月高崎の小



高崎時代の山本喜三（中央）
明治23年（1890）1月
（山本勝子氏所蔵）

学校を卒業し、翌年二月群馬県中学校（現県立前橋高等学校）に入学したが、病気のために中退し、同一七年四月一日群馬県師範学校（現群馬大学教育学部）に編入し、同一九年三月三〇日、同校を卒業。卒業と同日付で群馬県小学六等訓導に任じられ、同県の第二一学区公立小学校（同年五月より第三十九学区に改変、現高崎市）に勤めた。その後の略歴は以下のとおり。

明治二〇年三月

群馬県士族網野幸七に従って英学修行

同 二三年六月一二日

東京府駒込高等学校訓導（翌年、仰高高等小学校に校名変更）

同 二四年七月

私立哲学館（現東洋大学）に入学、倫理学を学ぶ

同 二五年一月

本郷区本郷尋常小学校訓導

同 二五年六月

私立東京速成学校で簿記学卒業

同 二五年九月

本郷区駒本尋常高等小学校訓導・本科正教員

同 三一年三月二五日

静岡県より小学校本科正教員の免許を受ける

同 三一年四月一八日

静岡県駿東郡御厨町外九ヶ村学校組合立御殿場高等小学校（現御殿場市立御殿場小学校）訓導・本科正教員兼校長

科正教員兼校長

同 三一年十一月

哲学館教育学部通読証を受ける

御殿場高等小学校の校長を務めていたところの明治三二年（一八九九）

三月三十一日、元駿東郡長・元衆議院議員で当時は野に下っていた江原素六の推挙により、金岡村立金岡尋常小学校に訓導・本科正教員兼校長として



沼津時代の山本喜三（右）
明治30年代か
（山本勝子氏所蔵）

赴任した。第七代の校長であった。余談ではあるが、山本喜三の後任として御殿場尋常高等小学校に訓導兼校長として赴任したのは、沼津兵学校附属小学校で学び、当時志太郡の視学となっていた山出半次郎であった。

喜三が金岡小学校に校長として赴任してから、春季運動会を千本松原で開催するようになった。明治三五年（一九〇二）、高等科併置により金岡尋常高等小学校と改称し、引き続き校長の任にあたった。同年一〇月、校舎落成を記念して校旗、校歌を制定した。四四年、駿東郡教育会より表彰、翌年、静岡県庁より表彰された。

喜三は、学校教育だけではなく、社会教育面でも功績があった。青年会の会長となり、明治四〇年（一九〇七）七月二三日付で、小学校付設で設立された村立金岡農業補習学校の訓導兼校長に就任した。また、明治末期から大正にかけての全国的な各種婦人会結成の動きがあった。これは、文部省や内務省が奨励したもので、地方改良運動推進や婦人解放運動への牽

制を目的としており、主に学校長や名望家が代表に就任した。金岡村でも婦人会を組織し、喜三が会長に就任した。明治四四年（一九一一）七月、江原素六の母ろくが亡くなった際には、金岡尋常高等小学校長としてだけでなく、金岡婦人会総代としても弔辞を寄せている。

大正九年（一九二〇）三月に金岡小学校長を退任した後も、引き続き金岡村東熊堂に居住し、昭和三年（一九二八）一月、陪審員候補者に選任され、昭和五年七月二〇日、国勢調査員を務めた。

喜三の娘千代も教員となり、大正八年（一九一九）沼津女子尋常高等小学校（現沼津市立第二小学校）、大正一〇年三月三十一日、金岡尋常高等小学校訓導を務めた。

〈参考文献〉『金岡の教育百年史』



山本喜三の妻かねと子どもたち
長男晴恵（右）・二女菊枝（中央）・長女千代（左）
（明治30年代か 山本勝子氏所蔵）

平成26年度新収資料の紹介 昨年度、明治史料館に仲間入りした資料です。

寄贈	石原信治様 佐藤邦彦様 大川周作様	昭和12年7～11月の新聞(朝日・読売・都) 学徒動員通年日記原資料など 大川通久関係資料(追加)、大川梅翁作の脇差、大川理平肖像画など 深谷又三郎関係資料 井口省吾関係資料 沼津市事務報告等	購入	海陸軍制一覧表・島田豊『新編英和商用会話』・岩佐敬重『健病のしるべ』・近藤鎮三『小学輿地誌略』・深谷敬一『獣医通』・宮崎言成『万国商業地理書』・伊佐新次郎俳句短冊2点・根岸機峯『各国対照国史集成二千五百七十年史』・片山平三郎『造化秘事』・『同報会誌24号』・「熊谷県職員録」
	深谷真一様 神阪誠様 高橋秀忠様	沼津兵学校・旧幕臣関係(40件) 江原素六『国体と国光』・『東京市教育会員名簿』・『東京教育時報』41・42・麻布中学校校友会『麻布中学校々友会雑誌 第35号』・「参同社第一年会始末」・松井甲太郎『小学修身書』第五巻・第六巻・渡部温『経済説略』(沼津版)・『男女之義務』・「下田奉行中村屋敷役人名記」・田辺太一校閲『新編弓術教範』・林洞海『熱病名称変革考』・「山田昌邦夫妻肖像画絵葉書」・「神尾家親類書」『徳川義臣伝 甲』・永峰秀樹『筆算教授書』・石橋絢彦『訪古見聖儀倉ヲ推奨ス』・田口卯吉『麻氏経済哲学 中巻』『中国文明小史』・島田三郎『宗教と政治の関係』・大川通久『大日本写真品評会雑誌』・飯野忠一『蜀山狂歌叢誌』2点・瀬名義利『教育画報』第14巻第1号・村垣素行『筆算代教例題』・山出半次郎・渡瀬庄三郎『実業教育日本歴史 上』『普通教育生理学教科書』・荻生録造『近世トラホーム講話』・佐久間信恭『教師ノ道徳上ニ於ル資格及職分』・高梨鎮『神はわが力』・瓜生繁子『ゆかしきたしなみ』・相原重政『欧州各国		

平成26年度当館収蔵資料の使用 明治史料館の資料がいろいろなところで活躍しました。

☆展示使用

5月～6月	三井住友信託銀行株(株)沼津支店 40周年記念企画 ロビー展示 写真18点
8月	万年青大学「戦争写真展」 写真12点 シニアクラブ駿河平・長泉町戦没者遺族会「戦争の悲劇伝えたい展」 戦争関係写真12点
9月・11月	沼津商工会議所・リバーサイドホテル「沼津商工会議所創立90周年記念事業写真展」 写真4点
9月～11月	修善寺郷土資料館「伊豆市制施行10周年記念 修善寺で出逢う若き日の巨匠たち一大観・紫紅・靱彦・古径・青邸を中心に」 「沼津町全図」・「大日本職業別明細図」・絵はがき「(沼津名勝) 三十三番長谷寺」(沼津名勝) 千本浜公園内長谷寺と記念午報 「沼津公園 仙松閣ホテル全景」(沼津名勝) 公園仙松閣ホテル
11月	沼津市歴史民俗資料館「白隠禅画展」 「白隠粉引歌」
3月	NPOキッズアートプロジェクトしずおか「発見!キッズアート!—こども・コラボ・みゅーじあむ—」展 沼津商工会議所川上冬崖「太湖石花卉」

☆刊行物掲載

4月	東京都写真美術館 RENJO トランプの外箱 「(下岡蓮杖納品袋)」(原渡辺家文書) 南駿農協『さんみみ通信』vol.5 写真「江原素六」
5月	相原修『洋学者 石井修三著作集』羽衣出版 「小隊教練」
7月	昭文社『Tabitte・伊豆』 写真「江原素六」
8月	『広報ぬまづ』8月1日号「ぬまづの宝100選めぐり」 「沼津城周辺図」 山川出版社『レンズが撮らえた幕末 日本を写した外国人カメラマン』 写真「大築尚志」(大築尚志関係資料)
9月	青木更吉『流山の江戸時代を旅する』崙書房 「愛鷹山縁起」 碧南市教育委員会『碧南市史料第70集 訳注 大浜陣屋日記 下』 「大浜陣屋日記」(旧沼津藩士杉浦家資料)
10月	南駿農協「2014年冬ギフトパンフレット」 写真「江原素六」 全国自治会連合会沼津大会 手提げ袋 「東海道五十三次」「末広五十三次」
2月	静岡新聞社 静岡新聞夕刊「こちら女性編集室」 「大陸の花嫁ポスター」(山田富美子氏寄贈)
3月	愛知県『愛知県史 資料編22 近世8 領主2』 「参州御領分当巳御物成明細帳」他1点 (旧沼津藩士杉浦家資料)

☆テレビ等映像・その他

5月	静岡あさひテレビ「とびっきり!しずおか」 明治、大正、昭和期の沼津駅前の写真
6月	NHK BSプレミアム「英雄たちの選択 勝海舟の江戸城無血開城」 江原素六関係文書 写真
10月	静岡第一テレビ「静岡〇ごとワイド!」内「くんちゃんのぐるっと富士山チャリ散歩」 浮世絵

沼津市明治史料館通信

第121号

平成27年4月25日

編集・発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL055-923-3335
FAX055-925-3018

印刷
みどり美術印刷株式会社

人事異動

3月31日付で館長内村博隆、臨時囑託大庭晃が退職しました。4月1日付で主査山本充が市街地整備課に異動、後任に押野幸弘が着任しました。4月2日付で館長伊澤康行、臨時囑託石田ゆかりが着任しました。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

江原素六学習作品展

平成27年5月17日(日)まで
開・催・中

市内の小学校で取り組んでいる江原学習(江原素六先生の功績を学ぶ学習)の成果を展示します。今年、金岡・沢田・門池・開北・愛鷹小学校が出品してくれました。紙芝居や新聞など力作がいっぱいです。ぜひご覧ください。